

コシヒカリの移植は5月10日以降をめやすとしましょう！

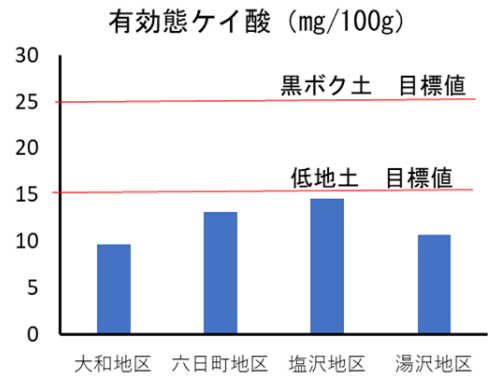
- ☑ 土壌診断に基づいた土づくり
- ☑ 生育過剰になりやすい場合は**減肥(窒素成分で1～2割)**を行い、倒伏を防止
- ☑ コシヒカリの**移植は5月10日以降に実施し**、高温登熟による品質低下を防止
- ☑ **活着まではやや深水管理、活着後は浅水管理**を行い、分けつの早期確保
- ☑ 農薬は容器のラベル等で使用量や使用時期等を確認し、適正に使用

1 本田の準備

(1) 土づくり

- ・多くのほ場でケイ酸が不足しているため、春または秋の耕起前に施用するなど、土づくりに努めましょう。
- ・ケイ酸の吸収量が高まる出穂40～35日前頃の施用も有効です。

多くのほ場でケイ酸が目標値に達していません！



JAみなみ魚沼土壌調査結果 (R4)、地区平均値

(2) 基肥

- ・分施肥体系の窒素成分量は表1をめやすに地力や前年までの生育状況等を考慮してほ場ごとに調整しましょう。
- ・全量基肥体系（一発肥料）における基肥時の窒素成分量は表2をめやすに条件を考慮して施用量を決定しましょう。

表1 分施肥体系における基肥施肥量めやす

土壌タイプ	成分量(kg)		
	窒素	リン酸	加里
粘質の湿田	2～3	4～10	4.5～6
作土の下にれきがある水田	3～4	4.8～10	
黒ボク土壌			

表2 全量基肥体系における基肥施肥量の目安

	分施肥体系と比較した施用量	基肥の窒素施用量めやす(kg)	
		粘質土壌	黒ボク土等
追加穂肥を予定している	総窒素量の8割程度	3.2～4.8	4.0～5.6
追加穂肥を予定していない	総窒素量の全量	4.0～6.0	5.0～7.0
初めて全量基肥施肥を導入 前年に倒伏したほ場等	総窒素量から1～2割 減肥して追肥で対応	3.2～5.4	4.0～6.3

(3) 耕起

- ・作土深 15 cm を目標に耕うんしましょう。作土が深いと根域が拡大し養分吸収量が増え、収量・品質の向上が期待できます。
- ・一度に深耕すると下層の不良土壌が多く混入し逆に地力低下を招くことから、有機物や土づくり資材の施用と合わせて、毎年少しずつ深耕しましょう。

(4) 代かき

- ・雑草の多発生を防ぐため、なるべく移植の 2～3 日前に行いましょう。
- ・練り過ぎると土壌の酸素が不足し、苗の活着や根張りが悪くなり初期生育が遅れます。
- ・ただし、水持ちの悪い場合は代かきの回数を増やすなどし、丁寧に行いましょう。

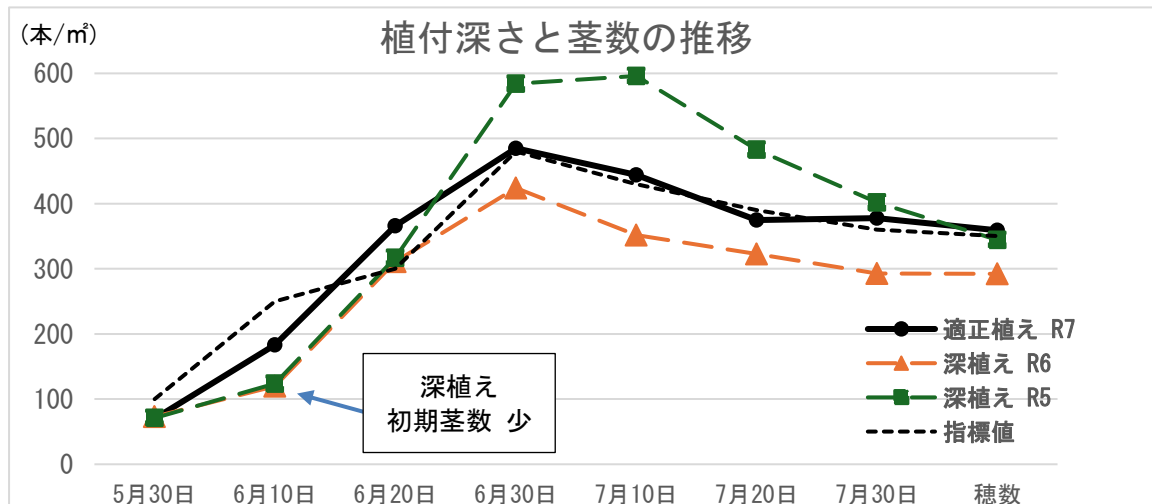
2 移植（田植え）

- ・高温登熟による品質低下（白未熟粒の発生等）のリスクを低減させるため、コシヒカリの移植は 5 月 10 日以降を基本としましょう。
- ・一方で、出穂日が遅くなると登熟に必要な積算温度を十分に確保できなくなるので、5 月末までに移植を行いましょう。
- ・植え付け本数は 1 株 3～4 本、栽植密度はコシヒカリで 50～60 株/坪、植え付けの深さは 2～3 cm を基準とし、品種、田植え時期、肥沃度により栽植密度を調節しましょう。
- ・深植えすると生育初期の茎数確保が難しくなるため、浅植を意識しましょう。

田植時期と出穂期の状況

	田植時期	→	出穂期
始期	5月13日	→	8月3日
盛期	5月20日	→	8月6日
終期	5月29日	→	8月11日

普及指導センター調べ、2014～2024年の平均値

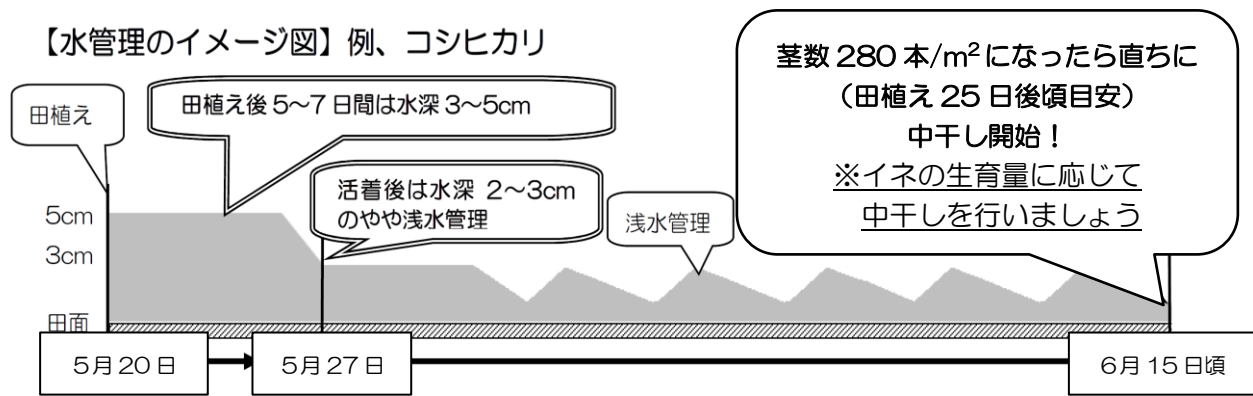


出展：巻農業普及指導センター

3 移植後の水管理

- ・苗の活着まではやや深水（3～5 cm）の保温的水管理で、低温や風による植え傷みを回避しましょう。
- ・活着後はやや浅水（2～3 cm）管理で株元の水温を高め、分けつの発生を促進し、良質茎を早期に確保しましょう。
- ・水を更新する時は早朝にかん水して日中は止水しましょう。水温の上昇を図ることで、分けつの早期確保が期待できます。
- ・ワキの発生が多い場合は、まとまった降雨前の落水や夜間落水によるガス抜きを行い、土壌への酸素供給などを図り根の健全化を図りましょう。

ワキの発生量削減は水田からの温室効果ガス発生削減につながります



※水は限られた資源です。水のかけ流しは行わないようにしましょう。

4 適正な除草剤の使用

・水田に散布された除草剤成分は、数日かけて土壌表面に処理層を形成します。水尻（落水口）を閉めた後に使用し、7日間は止水とし、落水やかけ流しはしないでください。

・除草効果の安定のため、散布の際は処理時の水深を確保するとともに、処理後 4~5 日は湛水状態を保ちましょう。

・自然減水により早期に田面が露出する場合は、処理層を壊さないように静かにかん水しましょう。

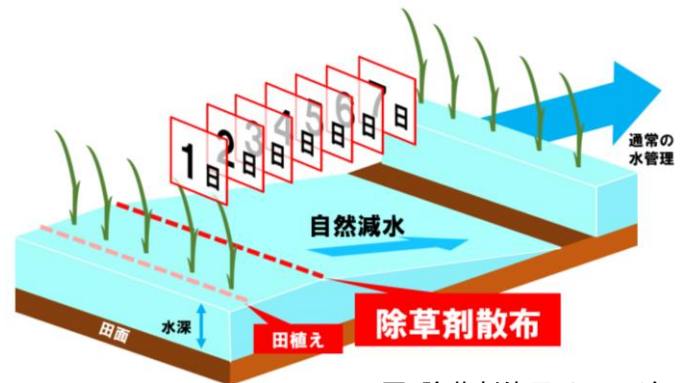


図 除草剤使用イメージ

5 農作業を安全に行うために

- ・県では、農作業事故防止を図るため、春の農繁期を「特別運動期間」として取組を強化しています。
- ・慣れた作業であっても「自分は大丈夫だ」と思い込まずに、農作業事故の発生防止に努めましょう。

令和 8 年度新潟県農作業安全運動スローガン

見直そう！作業手順と安全意識

- ・こまめな休憩と水分補給による熱中症予防
- ・周囲からの高齢者等への声かけによる事故防止
- ・作業前の周囲の安全確認とゆとりある作業の実施
- ・機械の点検・清掃時におけるエンジン停止の徹底
- ・労災保険等への加入促進
- ・乗用型農業機械操作時のシートベルト・ヘルメットの着用徹底
- ・農耕車等の公道走行に係る法令遵守の周知徹底

6 山火事を防止

- ・山火事の発生原因のほとんどが野焼きや焚火です。人命や大事な資産を守るため、火災防止にご協力願います。

お問い合わせ：普及課 作物担当 TEL 025-772-3337 Fax 025-772-2612

普及指導センターからの稲作情報について、配信不要の方は問い合わせ先まで連絡ください。